

# は〜もに〜い

Harmony

南相馬市

「は〜もに〜い」には、「調和」や「和音」という意味があります。男女がお互いに尊重し、支え合い、仕事と家庭のよりよいバランスを考えていくことによって、より心地よくもっと心に響くハーモニーを奏でられたら……そんな願いをこめて本紙に名付けました。



主な内容

## CONTENTS

### ■ インタビュー特集

- ものづくりで癒しの絆～男の木工教室～
- 思いっきり体験～こどものつばさ～
- キラリ光る酪農家の汗

### ■ 男女共生推進事業「講演会」

### ■ JR常磐線復興特別記念列車出発式

第5号

2014年春号

# インタビュー特集

## 《ものづくりで癒しの絆～男の木工教室～》

引きこもりがちな男性を外に引っ張り出そうと、「HOHP」（ホープ）が催している「男の木工」。ものづくりの楽しさが会員同士のコミュニティーにつながっています。



おだか まさあき  
**小鷹 昌明** 医師

HOHPによる「男の木工」を主催  
南相馬市立総合病院勤務  
神経内科専門医、医学博士、エッセイスト  
木工教室の開設 平成25年1月  
現在の会員 15人

「HOHP」（ホープ）とは  
「引きこもり・お父さん・  
引き寄せ・プロジェクト」  
から名付けられました。

### Q：木工教室開設のきっかけは？

震災後、どうしても閉じこもりになりがちな中高年男性が、没頭できて興味を持つ手作業はと考え、創作意欲をかき立てる「木工教室」が一番と考えました。

一つのもの共同作業で完成させることによる会員同士のコミュニケーション創出が目的で、完成品は二次的目的と考えています。

### Q：制作作品は？

小高小学校(仮設校舎)の手洗い場の台、図書室の本棚などを制作しました。現在は小高区役所内「いっぷくや」に置くカウンターテーブルを制作中です。

### Q：一年間活動した手応えは？

最初はただ、ひたすらまっすぐ切る作業でしたが、一年もすれば皆さんも上手になって、新しく入った会員に教えるようになっていきます。

会員が制作した作品が公共施設に置かれ、市の復興に役立っていることで、会員のやりがい、モチベーション向上につながっています。全建総連の方が週代わりに指導に来ていただいています。

作業スペースの確保、技術指導などあらゆる面において、皆様からの協力をいただき、大変感謝しています。



よこやま くにひこ  
**横山 邦彦** さん(木工教室会員)

住所 南相馬市小高区  
居住 原町区内借上住宅  
元会社員  
奥さんと2人暮らし

### Q：参加したきっかけは？

どこか外に出て何かをやりたいと思っていました。そんな時、お弁当配達などの手伝いをしていたNPO法人ほっと悠さんの紹介により教室に通い始めました。

### Q：気持ちの面で変わりましたか？

木工に関しては初心者ですが、毎週楽しみにしています。

### Q：今後作ってみたいものはありますか？

現在は一つのことをパート担当しながら共同作業で作っていますが、自分の個性や創作力を活かして、花が好きなので花台などを作りたいと思います。

(横山さんは奥さんとともに、震災前にご自宅で育てられた四季折々の花々を小高病院内に飾っていただいております。)



会員の作品（総合病院内に展示）

東日本大震災から3年が経過しました。様々な困難に遭いながらも、地域や仲間の応援、家族のお互いの協力を得ながら、夢や希望を持って仕事、学習、地域活動に取り組んでいる皆さんの元気な姿を紹介します。



ささはら くみ  
**笹原 久美** さん（会社員）

住所 南相馬市原町区

職業 会社員

夫（会社員）と2人暮らし

2人の子どもは仙台市に避難中



### Q：参加されたきっかけは？

震災後、家族みんながばらばらになり、寂しい思いをしていました。気を紛らすため何かやってみたいと思っていた時「木工教室」のチラシが入ってきました。元々ものづくりが好きだったので早速、申し込みました。

### Q：今まで作ったもの、今後作ってみたいものは？

新築した我が家の表札を作りました。

今はソーラーアグリパークの看板を手掛けていますが、腕を磨いて今後はガーデンデッキや椅子など、自分の味や個性が表れるものに挑戦したいと思います。



### Q：木工教室に入って、気持ちの面で変わった点がありますか？

ここに来ると気持ちがすごく楽になり、とっても楽しいです。先生にほめられると自信につながり、ますますやる気が湧いてきます。子どもが帰ってきた時に作品を見せて自慢するのが楽しみです。

### Q：ほとんど男性の方ですが、会話などはあるのですか？

男の人だけでは会話は無いのですが、わたしが声をかけるとみんな答えてくれますし、また話してもくれます。昨年6月頃、会員同士の交流を図るため何かしようとして声をかけたところ、すぐに話がまとまり、横山さん宅（借上住宅）にみんなが集まり、楽しい時間を過ごすことができました。それからますます教室の雰囲気良くなり、ものづくりの楽しさを実感しています。

小鷹先生は、眠っている能力を再生させるとともに、生きがいを見つけてくれました。また、初心者である横山さんの常に挑戦する姿勢は周りの人たちを元気づけてくれます。さらに笹原さんは、無口な男性の口を開かせ、和やかな雰囲気を作ってくれています。皆さんのものづくりをしている姿はとっても生き生きして輝いています。取材する側もとても気持ちよい時間を過ごすことができました。

## 《思いっきり体験～こどものつばさ～》

震災後避難のため親元を離れ、新潟での学校生活で一回り成長した小野さん。夏休みは「こどものつばさ」に参加して自然の中で友達と一緒にのびのび遊び、得難い体験をしました。



### おの なるみ 小野 成海 さん

鹿島中学校 1年生

部活はサッカー

家族構成 両親、姉、祖父母の  
6人家族

### 「こどものつばさ」

市外の支援者と市内小中学校  
PTA連絡協議会が中心と  
なって実施する、市内の小中  
学生に対する県外での臨海、  
林間学校などの招待事業。

#### Q：震災当時はどうしていましたか？

当時は小学校5年生で、姉と祖父母と僕と4人で新潟県糸魚川市に避難しました。避難しなかった両親や友達がどうしているかとても心配でした。

新潟では友達ができるかとても不安でしたが、みんなが自宅や南相馬市の様子などを聞いてくれて、話すことで緊張が溶け親しくなりました。

#### Q：うれしかったことはありますか？

5月に運動会があり、両親が見に来てくれたのでとてもうれしかったです。運動会にはどうしても参加したいと思っていました。7月上旬に自宅に戻りましたが、せっかくできた友達との別れは寂しかったです。でも、地元の友達と会えたことが一番うれしかったです。

#### Q：こどものつばさに参加してどう感じましたか？

去年7月に北海道富良野市に行き、地元の子どもたちとの交流もありパークゴルフをしたり、バーベキューをしたり、旭山動物園にも行くことができました。何よりもサッカーの友達と夜遅くまでいろんな話ができることが一番楽しかったです。

#### Q：将来の夢は？

将来は料理の道に進みたいです。世界中を歩いて料理の勉強をし、世界の料理を作りたいです。そしてシェフになり日本に戻って店を出すことが夢です。

## お母さんにお話を伺いました。

#### Q：お母さんから見た成海君は？

震災があったことで良かったのか悪かったのか反抗期がなかったです。感情が出せなく親に甘えることができなかつたのは可愛そうでした。たった3ヶ月あまりの避難でしたけど、大人になって帰ってきたような気がしました。子どもには何でも挑戦させてあげたい。今はその土台を作っているところで道を開いてあげようと家族で応援しています。

#### Q：お母さんも家庭と仕事に頑張っていますね？

仕事に出かけるのは私が一番早く、朝7時前に家を出ます。夜も残業が多いため、おじいちゃん、おばあちゃんがいてくれて助かります。部活や塾の送り迎えも夫と交代でやっていますし、家事は親子みんな交代制で協力してやっています。仕事は生産管理を任されているので大変なのですが、家族の理解、協力があるので安心して仕事ができます。家族には本当に感謝しています。

子どもの成長を願い、家族全員がお互いを信頼、協力して、感謝の気持ちを常に持ちながら支え合っている姿に感動しました。

## 《キラリ光る酪農家の汗》

福島第一原発から21キロ余りの原町区で現在も酪農を経営。家族とともに前向きに生きる酪農家の瀧澤さんに伺いました。



たきざわ しょうじ  
**滝澤 昇司** さん

南相馬市原町区在住  
家族構成 妻、2人の子ども、  
両親の6人家族



### Q：酪農を続けようと決心されるまで、大変な苦労があったと思いますが。

牛を置いて避難できないため、子どもだけ妻の実家の郡山市へ避難させ、妻も介護ヘルパーの仕事をするためここに留まりました。

乳牛は子牛も含めて50頭。自分自身も牛の搾乳をしてから避難しようと準備をしていましたが、子牛はおなかが空いて鳴き、涙が出ました。子牛にミルクを飲ませるのが妻の役目、先の見えない不安に駆られていたとき、妻が避難しないことを宣言し、2人で頑張るしかない決めました。

### Q：一番つらかったことを教えてください。

出荷制限がかけられ絞った乳は集荷されることなく畑に捨てる毎日で、とてもつらかったです。でも、前向きに頑張らなくてはならないと思う一心で頑張ってきました。

### Q：子どもさんについてお聞かせください。

息子は郡山の中学校を卒業後、地元に戻り高校2年生になりました。将来は酪農を継ぎたいと言っています。そんな息子に自分が土台を残してやらなければならないと思っています。

### Q：仕事以外で頑張っていることはどんなことですか。

仲間たちと綱引きチームを結成しています。酪農家や除染の仕事をしている人などメンバーはいろいろですが、楽しく練習をしています。近々、県大会があるので特訓中です（県大会では2位になりました）。

### Q：最後に一言お願いします。

酪農を継ぐ息子や家族のためにもまだまだ頑張らなくてはならないと思います。また、ここまでこれたのも心の支えがあったからこそできたと思います。家族や支援してくれた仲間本当に感謝しています。



震災直後からの困難を乗り越えて、酪農を続けて来られた苦労話は尽きないものでした。仕事も趣味も一生懸命な瀧澤さんの額に光る汗はダイヤモンドのようでした。

# 南相馬市男女共生推進事業「講演会」

「フクシマで暮らすということ～女性相談の現場から～」

平成25年11月16日（土）、市民情報交流センターマルチメディアホールにおいて、南相馬市女性団体連絡協議会との共催によりNPO法人ウィメンズスペースふくしまカウンセラーの丹羽麻子氏をお迎えして開催しました。

相談内容として多いのが不安や孤立感など心理的問題や放射線に対する母親たちのストレスなど。先の長いフクシマの女性たちへの継続した支援が必要であると話されました。



## ひとりで悩まず、ご相談ください

女性のための電話相談・ふくしま **0120-207-440**

(全国フリーコール：携帯電話も通話無料)

相談時間 月～金（祝日除く）10:00～17:00

相談無料、秘密厳守、匿名での相談も可能です 主催：内閣府 共催：福島県

## JR常磐線復興特別記念列車出発式

子どもたちの夢と希望を乗せて出発

平成25年12月21日（土）、県主催の「若者ふるさと再生事業」の一環として小高工業、小高商業高校の高校生が復興に向けて企画した特別記念列車が原ノ町駅～相馬駅間を走行しました。式の中では幼稚園児のデザイン画コンクールの表彰も行われました。

列車には市内の幼稚園児が描いた花の絵がラッピングされており、その後1か月間にわたり運行され、通勤通学の人たちの目を楽しませました。



この情報紙は、南相馬市男女共同参画情報紙作成委員会の委員が企画・編集しました。

### 編集後記

●3.11の震災で私たちは『自立』することを余儀なくされ、男女共同参画の原点である『自立』がいかに大切かを思い知らされました。しかし、今回の取材でそれをバネにし、前に進もうとしている皆さんの姿に強い感銘を受けているところです。みんなで力を合わせて、ダイバーシティ（多様性）社会を創出し、住みやすく、一人ひとりが生き生きと暮らせるような明るく元気な街を創造していきたいものです。取材にご協力くださいました皆様、本当にありがとうございました。（大谷）

「は～もにい」へのご意見・ご感想などをお寄せください。また、男女共同参画で頑張っている方、職場の情報などをお寄せください。

発行：南相馬市健康福祉部男女共同こども課 〒975-8686 南相馬市原町区本町2-27

TEL / 0244-24-5215 FAX / 0244-24-5740

E-mail : danjokodomo@city.minamisoma.lg.jp